



諫早市立長田小学校
859-0312
諫早市西里町800番地

電話
23-9010(職員室)
24-8267(校長室)
23-9059(FAX)

電子メール
e-nagata@isahaya-
snet.ed.jp

Web サイト
<https://www.isahaya-snet.ed.jp/school/e-nagata/>



ホームページには、毎日の
子どもの様子や学校からの
お知らせ、各種便り等を掲載
しています。ぜひ活用ください。

〈学級目標紹介〉

少し間があいてしましまし
た。子ども達は目標を意識し
1学期を過ごしてきました。

5年1組



5年2組



命を、心を見つめる教育週間 ～たくさんのご参観ありがとうございました

ひまわりが夏空に向かって背丈をぐっと伸ばしてきました。最速で梅雨が明けました。6月での梅雨明けは長崎県では例がないということです。この暑い夏がいつまで続くのか・・・複雑な心境ですね。

さて、先週の1週間は「長田っ子の心を見つめる教育週間」として、子ども達の心の成長に向け、様々な学習や講話、体験等を通じて、命や平和、友達のことなどを学校と家庭、地域が共に考え合う1週間でした。のべ350人の地域や保護者の皆様に参観をいただき、充実した1週間になりましたことに心より感謝申し上げます。28日(土)の草刈り作業にも暑い中にたくさんの方の参加をいただき、運動場始め、校舎周りが大変きれいになりました。

本教育週間が全県下で始まり22年目となります。子ども達を取り巻く生活環境は大きく変化し、命を脅かす要因も多岐にわたります。益々地域との連携の大切を実感します。子どもたちは未熟な存在です。小学校6年間は失敗の連続とってよいでしょう。その失敗やつまずき、そこから生じる不安や悩みに私たち大人はどう関わっていけばよいのでしょうか。例えば問題が起きた時に、間違いを叱るだけではなく、なにがだめだったのか、どうすればよかったのかを子どもに気づかせていくことが大切です。また、前向きにがんばろうとしている姿を認め、励ましてやることで自信とやる気が高まります。命を輝かせて生きる子ども達を地域総出で育ててまいりましょう。



校長講話から～相手をおもいやること～

23日(月)の全校集会で校長から以下のような講話をしました。

はじめに、「三尺三寸箸の教え」というお話をします。

三尺三寸というのは昔の長さの単位です。1尺は30cmちよつと、1寸は3cmちよつとです。だから三尺三寸というのは、1m位の長さになります。こんな長いお箸のお話しです。

あるとき、お釈迦様は、地獄と極楽(天国)それぞれに、円くて大きなテーブルの上に、ごちそうを山のように積み上げました。そして、三尺三寸の長さのお箸を3膳ずつ与えました。手で直接食べてはいけません。お箸の持ち方は正しく。約束はそれだけです。お釈迦様が、地獄と極楽の食事の様子を見ていると、しばらくして地獄では大げんかが始まりました。地獄の人たちは、我先に食べようとお箸を奪い合い、我先にごちそうを箸でつまんで自分の口に運ぼうとしています。ところが、頑張っても頑張っても、箸が長すぎて、なかなかごちそうが口に届きません。「次は俺だ！いいや、俺だ！」結局だれ一人食べることができずに、体はますますやせてガリガリになっていきました。お釈迦様は悲しそうにため息をついて、今度は極楽の様子を見ていました。するとどうでしょう。極楽の人たちは楽しそうに食事を取り、あちこちからやさしい笑い声が聞こえてくるではありませんか。さあ、なぜだと思いませんか。(子ども達に考えさせ、3年生の那須泉帆さんを指名しました。すると大正解！)

極楽の人たちは、お箸でごちそうをつまむと、「どうぞ」と言って、正面に座っている人の口に運んであげていたのです。お互いに相手を思いやることができたから、全員が楽しく食事をとることができたというわけです。

地獄と極楽が本当にあるのか。それは校長先生には分かりませんが、それは私たちの心が決めるものだと思います。自分さえよければいいと考える人の心はその時地獄になり、自分が大切であるように、友達や体の不自由な人、自分より弱い人、自分とちょっと違う人など周りの人も大切にしようと思って、やさしい言葉を使ったり行動できたりしているときには、心の中は極楽になるのでしょうか。この三尺三寸箸というお話は、「自分の幸せしか考えない人は結局幸せになれません。周りの人が喜ぶことをすれば、いずれ自分も幸せになれる」ということを教えてくれていると思います。

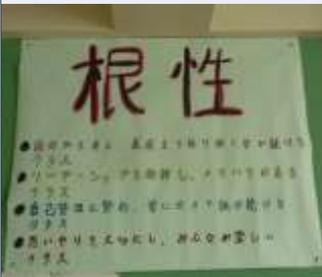
もう少しつけ加えると、人を大切にすることは、その人の話をしっかりと聞いてあげることだと校長先生は思います。授業参観をしていると、少し気になる話の聞き方をしている人がいます。あなたは、



6年1組



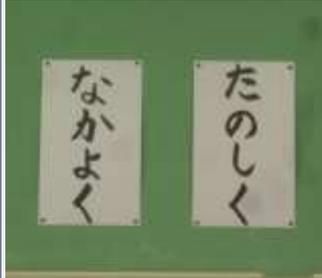
6年2組



ひまわり学級



たんぽぽ学級



あなたの家族や先生、友達の話をちゃんと聞いていますか？逆にあなたのお話や発表などをちゃんと聞いてくれますか？話を聞いてもらった時って幸せな気持ちになりますよね。人を幸せにする話を聞き方を教えます。

- 一つ目、相手をきちんと向いて聞くこと。
- 二つ目、人が話している時はじゃまをせず、最後まで聞くこと。
- 三つ目、その話を否定しないこと。
- 四つ目、うなずいて聞くこと。
- 五つ目、そうなんだ、すごいね・・・相槌をうつこと。
- 六つ目、質問など聞き返しをすること。

最後の方は難しいですが、話を聞くには真剣さが必要なんです。話をしっかり聞いてくれる人の話は、相手もしっかり聞いてくれるようになります。逆に言えば、人の話を聞けない人は、あなたの話も真剣に聞いてくれません。話を聞くことができない人は幸せにはなれません。

最後に、自分の命を大切にすることについて話します。命を大切にすることは健康であることなのです。当たり前のことですが、それがなかなかできないのです。

好き嫌いなくご飯をたべなさい。いつまでもゲームや携帯をしないで夜はしっかり寝なさい。外で遊ぶときは必ず帽子をかぶりましょう。ろうかは走りませんなど、家でも、学校でも、このようなことを言われる人が多いでしょう。それはあなたたちに命を大切にしたいからです。それくらい大丈夫さ・・・そう思う人もいます。でもそれは命をなくしたことがないからそう言えるんです。先生やお父さん、お母さんたちは、あなたたちより長く生きています。事故や病気で命を亡くした人を見ています。だから繰り返し繰り返しそう話したり、注意をしたりするんです。それをいい加減に聞かず、素直に聞き入れてください。いらぬ命なんて一つもありません。不幸になっていい人なんて一人もいません。人のことを思いやり、自分の命を大切にしてください。

平和集会から～紙芝居と歌に学ぶ



24日（火）3校時に体育館で、被爆二世の会・諫早の皆様と iro ナガサキの皆様を講師としてお迎えし、平和を考える集会を行いました。二世の会の皆様にはここ3年間4年生の平和学習にも携わっていただき、長田駅や長田グラウンドなどのフィールドワークを通して、戦争や平和について学ばせていただいています。

今回二世の会の皆様には、4年ぶりに新作の紙芝居を披露していただきました。長崎市に原子爆弾が投下された後、救援列車で諫早駅に運ばれてきた方々の看護にあ

たった方を題材にしたお話です。身近におきた戦争の話 子ども達は真剣に聞き入っていました。その後、iro ナガサキの皆様には、戦争や命を題材にした「くすのき」「いのちの歌」を素敵な演奏と歌で披露していただき、会場全体が一つになり、より一層胸にせまるものを子ども達、職員、そして参加いただいた地域の皆様と共に感じた、貴重な時間となりました。戦争の悲劇や平和の尊さを子ども達に語り継いでいくことが大人の、教育の果たす役割だと思います。



体験を通して学ぶ～5年生田植え学習

27日（金）、5年生が米作りの学習として、田植え体験を行いました。平野健全育成会会長さん始め、長田JAや保護者の皆さん、総勢17人の協力仰ぎ田植えが始まりました。最初は苗を多く植えすぎたり、水田の泥に足をとられたりしていましたが、慣れて来ると素早く、手際よく植え付けができるようになってきました。それでも体は泥だらけ。体験を通してこそ学ぶものがいっぱいでした。本校の体験田は中庭と隣接する市道を挟んですぐ横にあります。いつでも成長の様子を観察したり、草取りなどもできたりします。できる限り自分たちの力で育て、実りの秋を迎えたいです。米の貴重さがクローズアップされる昨今。毎日食べているものが当たり前ではないことを、米作りの学習を通して実感し、食への関心と感謝を高めて欲しいと願います。

